

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスあんじゅ

児童発達支援 支援プログラム

作成日

2025年

1月

17日

法人（事業所）理念		障がいの有無に関わらず、全ての子どもが笑顔にあふれ、平等な発達の機会を得られる様な地域に根ざした事業所を目指します。						
支援方針		支援が必要なお子様にとっては、早期からの継続的な教育を受け、子どもたちの困り感について、脳のネットワーク機能の障害に基づいた視点と5領域を網羅した視点で捉え、アセスメントを実施します。アセスメント結果を分析し困り感の理由を分析していきます。						
営業時間		9時	0分から	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。睡眠・食事・排泄を身に着ける方法や食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚等）支援（咀嚼・嚥下・姿勢保持等）します。遊びの中や日常の学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫します。						
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な身体感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。身体感覚は力加減や、身体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。ダンス・音楽遊びの活動にも含まれます。						
	認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境の設定であれば円滑に学習できるかを模索し支援します。また、“着席”“大人をよく見る”“少し嫌なことへも頑張ってみる”等課題に向く姿勢、力をつくよう支援します。頑張ると「楽しい」「やってよかった」と感じるように関わり方や内容を工夫します。						
	言語コミュニケーション	“要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなくジェスチャーやカードなど、子どもに合った方法を考え支援します。						
	人間関係社会性	SST（ソーシャルスキル）と言われる支援です。“順番交代”“役割”“ルールを守る”“指示に沿った行動をする”など、社会に適応する為に必要なスキルを支援します。また、“自分や相手の感情に気付く”“対処法を考える”など、気持ちのコントロールを練習します。また、ストレスが強い状態の時には、お子様のペースに合わせて関わり、ストレスを発散する方法を考えます。						
家族支援		家族からの要望があった場合、子どもに対する支援場面を通じた個別のニーズに応じた学びの機会や相談援助を提供します。支援は、家族と密に連携しながら、適切なタイミングで行い、子どもの成長に寄与することを目指します。また、提供した支援の進捗状況や効果を定期的に確認し、家族にフィードバックを行いながら、必要に応じて支援内容を見直します。			移行支援		併行・移行利用時の利用日数や利用時間などについて、保護者や関係機関と密に連絡調整を行い、子どものニーズに応じたスケジュールを設定します。調整は、子どもの学習や生活リズムを考慮し、柔軟かつ適切に行います。また、定期的に状況を見直し、必要に応じてスケジュールの調整を行いながら、持続的な支援を提供します。	
地域支援・地域連携		子どもを担当する保健師や、子どもが通う医療機関などとの情報連携や調整を行います。			職員の質の向上		定期的な施設内学習会の機会や外部研修への参加、資格取得に関してフォローアップを行っています。	
主な行事等		毎週のダンス・毎月、季節の制作（工作）・調理実習・課外活動やイベントを通じて、様々な『体験する機会』の提供を行っている。						

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスあんじゅ

放課後等デイサービス 支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

17 日

法人（事業所）理念		障がいの有無に関わらず、全ての子どもが笑顔にあふれ、平等な発達の機会を得られる様な地域に根ざした事業所を目指します。						
支援方針		支援が必要なお子様にとっては、早期からの継続的な教育を受け、子どもたちの困り感について、脳のネットワーク機能の障害に基づいた視点と5領域を網羅した視点で捉え、アセスメントを実施します。アセスメント結果を分析し困り感の理由を分析していきます。						
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	年齢が上がるにつれて、身体にも変化が起き心に起きる葛藤が難しくなります。頭ではどうすべきか分かっている、プライドや不安など、複雑な気持ちに混乱して行動に移せない……。感情を客観視してコントロールする練習をします。						
	運動・感覚	“緊張”“弛緩”など身体のコントロールをする練習をします。また、身体の感覚や様々な感触に触れ、感覚の成長を支援します。身体の動きをコントロールできると、気持ちや、テンションのコントロールも役立ちます。音楽遊びも含まれます。						
	認知・行動	“着席”“大人をよく見る”“話を聞く”“嫌なことへも頑張ってみる”等、課題に向かう、学習の姿勢を支援します。「頑張ってたかった」と感じるような関わり方や内容を工夫します。また、情報を適切に処理、コミュニケーションの難しさから生じる行動の予防方法を考えます。また、何もない、暇な時間が辛く感じるお子さまもいます。待つ時間や余興の過ごし方を一緒に考えます。						
	言語 コミュニケーション	“要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など、自分も周りも大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけではなく、ジェスチャーやカード等子どもに合った方法を一緒に考えます。暴力や暴言など社会的には不適切とされる行動も、子どもにとっての何らかの問題に“対処している行動”にとらえることが出来ます。どんな問題に対処しようとしているのか丁寧に観察しつつ、社会的にも適切な行動を考え工夫し支援します。						
	人間関係 社会性	SST（ソーシャルスキル）の習得を目指します。ソーシャルスキルを使用すると「やって良かった」「楽しい」と感じるなど、良い体験となるように設定を考えています。集団での活動や、友達との関りを通して実践的に学び身につけます。“挨拶”“ルール”“マナー”“礼儀”“感謝”“謝罪”など社会生活で活躍するスキルを身につけます。“友人”“上下”“利害”“同盟”“協力”“対立”など、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切に行動を選択できるように、一緒に考えます。						
家族支援		家族からの要望があった場合、子どもに対する支援場面を通じた個別のニーズに応じた学びの機会や相談援助を提供します。支援は、家族と密に連携しながら、適切なタイミングで行い、子どもの成長に寄与することを目指します。また、提供した支援の進捗状況や効果を定期的に確認し、家族にフィードバックを行いながら、必要に応じて支援内容を見直します。			移行支援		併行・移行利用時の利用日数や利用時間などについて、保護者や関係機関と密に連絡調整を行い、子どものニーズに応じたスケジュールを設定します。調整は、子どもの学習や生活リズムを考慮し、柔軟かつ適切に行います。また、定期的に状況を見直し、必要に応じてスケジュールの調整を行いながら、持続的な支援を提供します。	
地域支援・地域連携		子どもの個別ニーズに基づいた統一的な支援が提供されるよう、学校や放課後等デイサービスとの効果的な情報共有と連携を促進することを目指します。又、学習環境を子どものペースや状況に合わせて調整し、無理なく学べる場を確保することで、子どもの成長と自己肯定感を促進する事も目指します。			職員の質の向上		定期的な施設内学習会の機会や外部研修への参加、資格取得に関してフォローアップを行っています。	
主な行事等		毎月、季節の制作（工作）・調理実習・課外活動やイベントを通じて、様々な『体験する機会』の提供を行っている。						